

## 令和4年度 春季入学式

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご参列の保護者の皆様、ご家族の皆様、本日は誠にありがとうございます。心よりお慶び申し上げます。

本校は、4年前の平成30年4月に開校し、昨年度、ようやく1年次生から4年次生までがそろったばかりの学校ですが、本校の校名の「みらい創生」という言葉には、生徒のみなさん一人一人が、教職員と一緒に、自らのかけがいのない「みらい」を主体的に創り出してほしいという、強い願いが込められています。

また、本校の校歌は、「ひろしま文化大使」で、ビオラ奏者の沖田孝司さんが、作詞、作曲してくださいましたが、この歌詞の中にも、「僕らは創るみらいを創る」、「唯一無二の自分の世界」、「我が人生己が力で切り拓く」など、校名に込められたのと同じ思いが、ちりばめられています。

未来（みらい）と聞くと、みなさんはどんなことをイメージするでしょうか？ 未来とはいつから始まるのでしょうか？ 第264代ローマ法王のヨハネ・パウロ2世は、未来について、次のような言葉を残しています。

「未来は今日はじまる。明日始まるのではない」

未来は、はるか先にあるものではなく、今この瞬間から始まっているという意味です。考えてみると、今は過去の積み重ねです。過去に積み重ねられてきた、つまり、これまで自分自身が選択してきた一つ一つの行動によって今の自分がつくられています。同じように考えると、未来というのは、今、この瞬間の積み重ねです。今の自分自身の一つ一つの行動が未来の自分をつくっていくといえます。

ところで、みなさんは、「未来は今日はじまる。明日始まるのではない」というこの言葉を残した、ヨハネ・パウロ2世は、どのような家庭で育ってきたと思いますか？ 法王の位につくぐらいの人だから、裕福で恵まれた家庭で育ったのではないかと私はそう思っていました。しかし、実は、彼は、若くして、家族を失い、一人ぼっちになりながら、鉱山や工場で働きながら勉学を続け、やがて優れた聖職者として周囲から認められるようになり、聖職者の最高位である法王になったそうです。

未来がどうなるかは誰にも分かりません。しかし、今、できることを一生懸命に頑張る、そのことが未来の自分をつくっていく。ヨハネ・パウロ2世の生き方はまさにそのことを象徴的に示しているのではないかと思います。

生徒のみなさんは、どのような未来をつくっていきたいと考えていますか？  
そのために、本校でどのようなことにチャレンジしてみたいと考えていますか？

本校の先生方は、皆さんの未来に向けたチャレンジをしっかりサポートしていきます。分からないことや困ったことがあれば、一人で悩まずにいつでも相談してください。

そして、本校を卒業するときには、「広島みらい創生高等学校で学んでよかった」「私の母校は広島みらい創生高等学校です」と、大きく胸を張って言えるようになってください。

今日、ここから始まる「広島みらい創生高等学校」での日々が、輝きを持った学校生活となり、未来を切り拓く礎となることを祈念し、式辞といたします。

令和4年4月8日  
広島市立広島みらい創生高等学校長 井林 秀樹